

【生薬名】 地骨皮 *LYCII RADICIS CORTE*

【起源植物】 クコ *Lycium chinense*



【科名】 ナス科 *Solanaceae*

【別名】 一名杞根、一名地骨、一名苟忌、一名地輔と神農本草經にある

【薬用部分】 根皮

【主成分】 ベタイン、アルカロイド、 β シトステロール、リノール酸、タンニン酸

【薬性】 枸杞子の気味は甘淡寒、帰経は肺腎に属す

【効能】 ●清熱涼血・退虚熱

●一般に虚熱・癆熱(肺結核の消耗熱等)に用いる

●咳嗽・口乾・黄痰・血痰・舌赤・午後発熱などの肺熱の症状には地骨皮の肺熱を冷ます効能を利用して桑白皮などを加減する

●風寒感冒による発熱、脾虚による泥状便には使用しない

●1日3~5gを煎服、解熱、高血圧に

●強壯・強精・高血圧・糖尿病・咳に1日10~15gを煎服

●特に子供や老人の夜尿症に1日10gを煎服する

【出典】 ●瀉熱涼血補正気。肺中の伏火を降ろし、肝腎の虚熱を瀉し、能く血を涼して正気を補う。故に内にて五内邪熱、吐血尿血、咳嗽消渴を治し、外にて肌熱虚汗を治し、上にて頭風痛を除き、中にて胸脇痛、下利大小腸を平にし、表に在りては無定の風邪、傳尸有汗の骨蒸を療す。(本草備要)

●地骨皮 寒肌を解し、熱を退き、有汗骨蒸、陰を強め血を涼す。(薬性歌)

【備考】 ●挿し木で簡単に増えるので一鉢作っておくと便利

●地骨皮・牡丹皮はともに清熱涼血し陰虚の発熱に効がある。地骨皮は肺熱を冷まし、牡丹皮は肝熱を冷まし・血分の実熱を冷まし・活血祛瘀の効能もある。古人は牡丹皮は無汗の骨蒸を治し、地骨皮は有汗の骨蒸を治すと言うが現在では陰虚で有れば汗の有無に関係なく使用する

【処方例】 ●清心蓮子飲、滋陰至宝湯